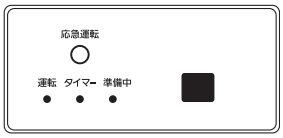
Panasonic

# 据付（電気）工事説明書

## ワイヤレスリモコン受信部（天井吊形）

品番 **CZ-10RWRT1A**




●「据付（電気）工事説明書」をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。特に「安全上のご注意」は、施工前に必ずお読みください。
●据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。また、「据付（電気）工事説明書」は、お客様で保管いただくよう依頼してください。
●移設、修理の場合は「据付（電気）工事説明書」を工事担当の方へお渡しください。
●「据付（電気）工事説明書」に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で据え付けされたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その据え付けが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
●接続する機器に付属の「据付（電気）工事説明書」もあわせてご覧ください。

## 安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

| | |
|---|---|
| ⚠ 警告 | 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。 |
| ⚠ 注意 | 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。 |

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

| | |
|---|---|
| ⃠ | してはいけない内容（禁止事項）です。 |
| ❗ | 実行しなければならない内容（強制事項）です。 |

## ⚠ 警告

### 据付（電気）工事をする前に

❗
- **据付（電気）工事は、お買い上げの販売店や専門業者に依頼する**（感電、火災の原因）
- **電気工事は、電気工事士が下記に従って行う**
  - 電気設備に関する技術基準
  - 内線規程
  - 据付（電気）工事説明書

  （感電、火災の原因）

### 本体を据え付けるときに

⃠
- **分解や改造は行わない**（感電、火災の原因）
- **水洗いしない**（感電、故障の原因）
- **配線は途中接続しない**
  （接触不良や絶縁不良、許容電流オーバーなどにより、感電や火災の原因）
- **配線は、室内ユニットの他の端子（電源配線用端子など）に接続しない**
  （感電、故障の原因）
- **ぬれた手で据付（電気）工事をしない**
  （感電、故障の原因）

❗
- **据付工事は、「据付（電気）工事説明書」に従って行う**（感電、火災の原因）
- **電気工事は、室内・室外ユニットなどの漏電しゃ断器を切ってから行う**（感電の原因）
- **付属品は当社指定の部品を使用する**
  （製品の落下、感電、火災などの原因）
- **配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する**（故障や発熱、火災の原因）
- **配線をはさまないように、カバーは元通り確実に取り付ける**（感電、火災の原因）

## ⚠ 注意

⃠
- **次のような場所で使わない**（感電、火災などの原因）
  - 結露するところ
  - 可燃性ガスなどの漏れるおそれのあるところ
  - 水や油（機械油含む）の飛沫の多いところ
  - 酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところ
  - 腐食性ガスなどの漏れるおそれのあるところ
  - 有機溶剤の飛沫するところ
  - 電磁波が出る機械のあるところ
  - 電圧変動の多いところ

❗
- **電気工事は人体に帯電した静電気をアースに放電してから行う**（故障の原因）

## 据え付け時のご注意

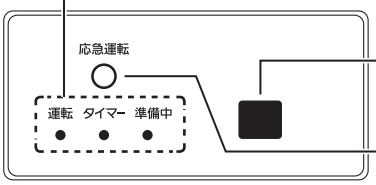
●次のような場所に据え付けない。
- 直射日光や直接外気が当たる、窓際など
- 過度な衝撃や振動のあるところ
- 熱源の近くなど

●使用温度、湿度範囲を満たす場所に据え付ける。
●高周波を発生する機器（インバーター機器、自家発電機、医療機器、無線通信機器）のあるところは避ける。
（本機の誤動作や故障の原因になったり、それらの機器へ弊害を与える場合があります）
●テレビ、ラジオ、パソコンなどの機器から１m以上離す。
（映像の乱れ、雑音の原因）
●配線は、電源配線などとより合わせたり、同一金属管内に収納したりしない。（故障の原因）
●配線は、地中に埋設しない。
（落雷などにより、感電や火災、故障の原因）

パナソニック株式会社　設備ソリューションズ事業部
〒370-0596　群馬県邑楽郡大泉町坂田1丁目1番1号
© Panasonic Corporation 2018-2023

Printed in Japan
ACXF60-32624
W0918-40823

## 各部の名前




① **表示ランプ**
運転状態をお知らせします

② **受光部**
信号を受信します

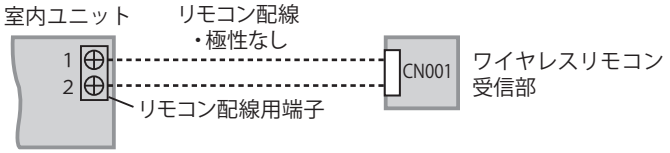
③ **応急運転ボタン**
応急運転を始めます／止めます

**お知らせ**
ワイヤレスリモコンの信号は微弱な赤外線を利用しており、下記の影響により操作を受け付けないことがありますので取り付け位置についてはご注意ください。
・インバーター蛍光灯やラピッドスタート式蛍光灯（グローランプがない方式のもの）
・プラズマディスプレイや液晶テレビ
・その他、出力の大きい照明や直射日光

## 1 配線のしかた

● リモコン配線の総配線長：400 m以内
・室内ユニットのリモコンわたり総配線長は200 mまで
● グループ制御時の接続可能台数
・室内ユニット：8台まで（熱交換気ユニットの台数を含む）
● ------ はワイヤレスリモコン受信部の配線をご使用ください。

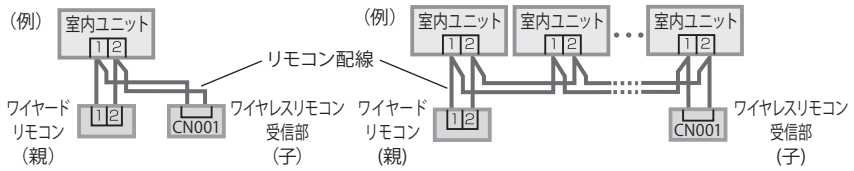
■ 基本配線図




## 親・子リモコン制御について

1台もしくは複数台の室内ユニットを2個のリモコンで操作することができます。
設置後、片方を「親リモコン」、もう一方を「子リモコン」に設定してください。
ワイヤードリモコンと併用時は、ワイヤードリモコンを「親リモコン」に設定してください。
設定方法については、本紙およびワイヤードリモコンに付属の「据付（電気）工事説明書」をご覧ください。

■ 室内ユニットが1台のとき　■ 室内ユニットが複数台のとき



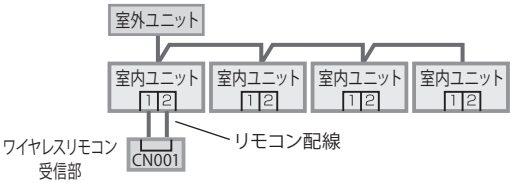

**お知らせ**　どの室内ユニットにリモコンを接続しても、動作します。

## グループ制御（リモコンわたり配線）について

● R32冷媒機種（オフィス・店舗用エアコン）は同一冷媒系統内のリモコンわたり配線が不要です。
● 冷媒種にかかわらず、冷媒系統が異なる場合や熱交換気ユニットと混在する場合は、すべての室内ユニットに、リモコンわたり配線が必要です。
● R410A冷媒機種（オフィス・店舗用エアコン）は同一冷媒系統内であっても、リモコンわたり配線が必要です。
● リモコン側で渡る配線は禁止です。
※ 6シリーズ以降のオフィス・店舗用エアコンの場合は、室内ユニットに同梱されている説明書をご覧ください。

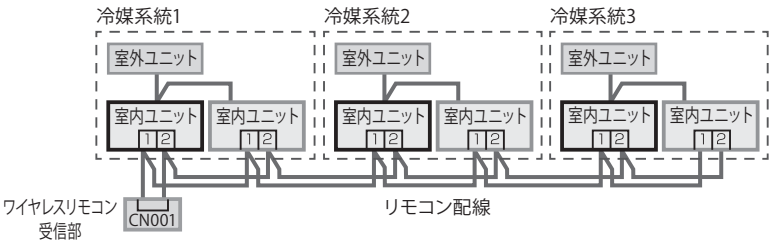
### 同一冷媒系統の室内ユニットをグループ制御する場合

※ R32冷媒機種（オフィス・店舗用エアコン）




**お知らせ**
どの室内ユニットにワイヤレスリモコン受信部を接続しても、動作します。

### 複数冷媒系統の室内ユニットをグループ制御する場合




**お知らせ**
● どの室内ユニットにワイヤレスリモコン受信部を接続しても、動作します。
● エコナビ対応と非対応の室内ユニットが混在する場合は、エコナビ対応の室内ユニットを、グループ制御の室内ユニット親機に設定する必要があります。

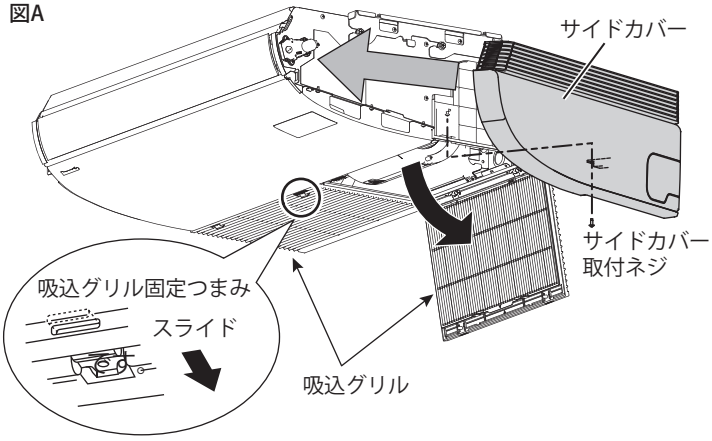
**お願い**
● 親・子リモコン制御やグループ制御を行う場合は、室内ユニットやワイヤードリモコンに付属の「据付（電気）工事説明書」もあわせてご覧ください。

## 2 据え付ける

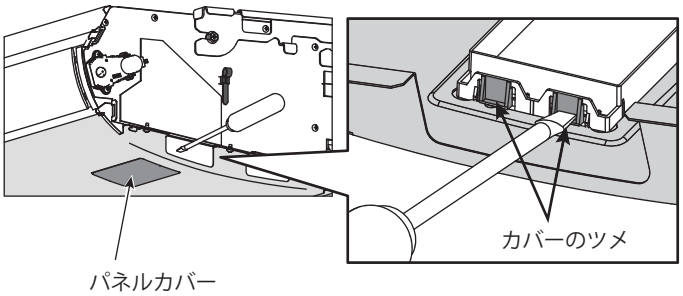
お願い 「3 設定する」を事前にご確認ください。

① 吸込グリル固定つまみをスライドし、吸込グリルを開きます。（図A）
② サイドカバー取付ネジをはずし、サイドカバーを前面へスライドさせてはずします。（図A）
③ 側面からマイナスドライバーを差し込み、ワイヤレスリモコン受信部（以降、受信部）の取り付け位置にあるパネルカバーのツメ（2か所）を押しながらカバーをはずします。（図B）
④ パネルにリモコン配線を通し、受信部をパネル穴に取り付けます。（図C）
※リモコン配線を通したあと、再生クランパーを締めてください。
⑤ 再生クランパーへリモコン配線を通し、リモコン配線入り口から室内ユニット内部へ引き込みます。（図C）
⑥ サドル（3か所）へリモコン配線を通し、室内ユニット電装ボックスへ引き込みます。（図D）
※電源線とリモコン線は分けて引き込んでください。
※ドレンアップキットを取り付けた状態でも配線の引き回しは変わりません。
⑦ リモコン配線をリモコン配線用端子へ接続し、配線固定具へ結束クランパー（付属）を通してリモコン配線を固定します。（図E）
※2線・4線式の場合は室内外信号線と共締めしてください。
※ワイヤードリモコンを併用される場合は、2本のリモコン配線を共締めしてください。
⑧ 手順①、②ではずしたサイドカバーと吸込グリルを元の状態に取り付けます。

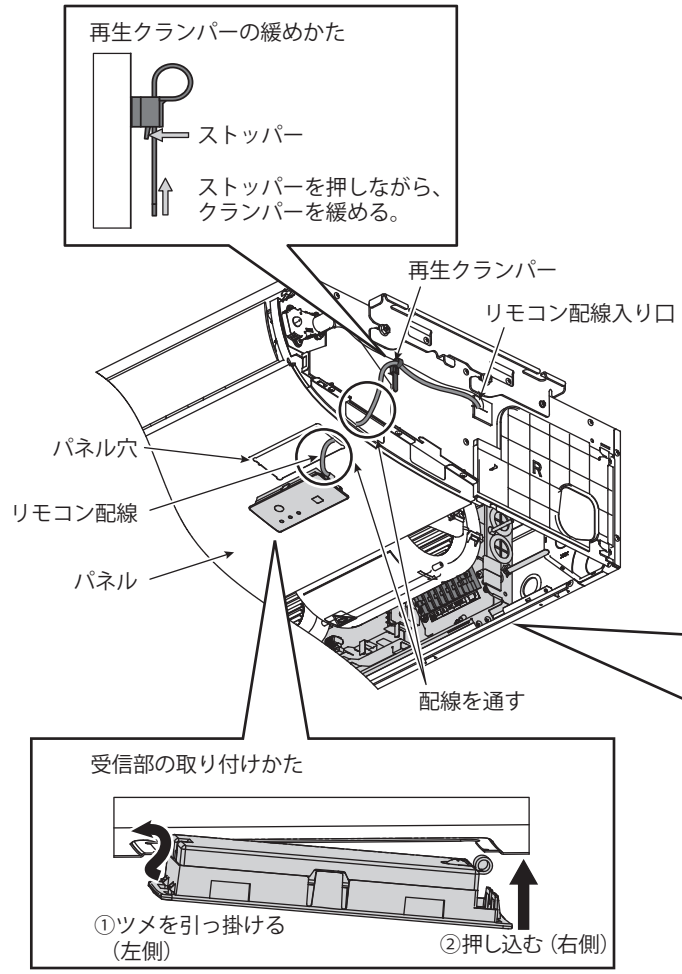
図A



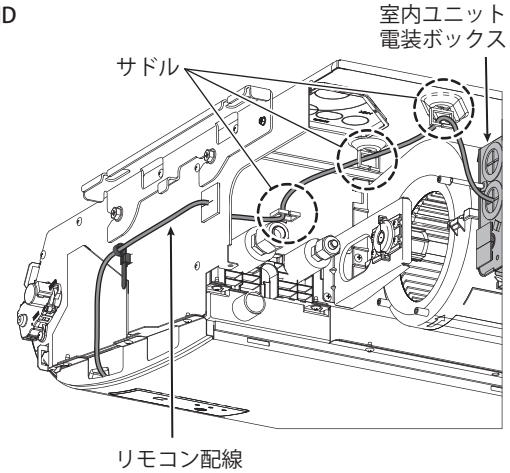

図B



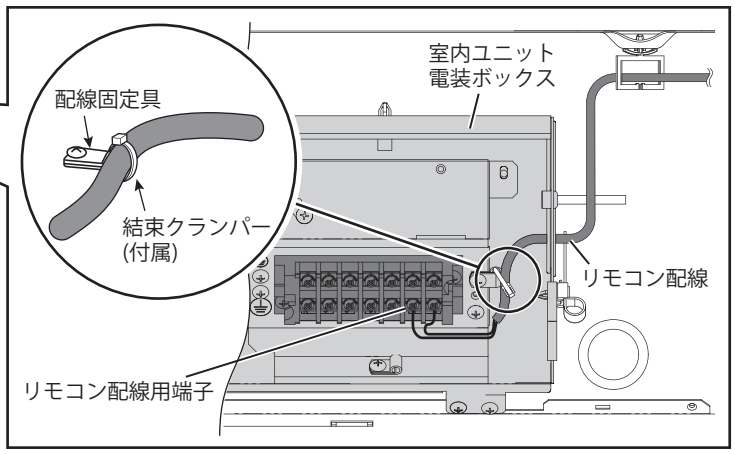

図C




図D



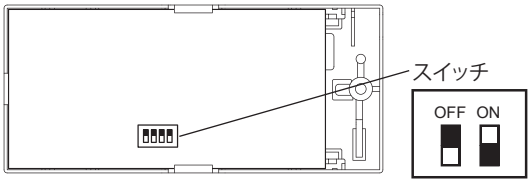

図E



## 3 設定する

■ リモコン親子設定　■ アドレス設定

設定を行う場合は、受信部のカバーを
取りはずす必要があります。




### リモコン親子設定

- ワイヤードリモコンやワイヤレスリモコン受信部を親子で設置するときに設定します。
- 片方を「親リモコン」、もう一方を「子リモコン」に設定してください。
- 工場出荷時は「親リモコン」に設定してあります。
- ワイヤードリモコンと併用時は、ワイヤードリモコンを「親リモコン」に設定してください。

| 親子設定 | 親 | 子 |
|---|---|---|
| ワイヤレスリモコン受信部の親子スイッチの位置 | 1 2 3 4 | 1 2 3 4 |

### アドレス設定

- 同じ室内に複数のワイヤレスリモコン受信部が設置されているときに、アドレスを設定して混信を防ぐことができます。
- ワイヤレスリモコン送信部のアドレス変更方法はワイヤレスリモコン送信部の「取扱説明書」をご覧ください。

| ワイヤレスリモコン送信部のアドレス表示 | アドレス ALL | アドレス 1 | アドレス 2 | アドレス 3 | アドレス 4 | アドレス 5 | アドレス 6 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ワイヤレスリモコン受信部のアドレススイッチの位置 | 全てのアドレス位置で受信が可能 | 1 2 3 4 | 1 2 3 4 | 1 2 3 4 | 1 2 3 4 | 1 2 3 4 | 1 2 3 4 |

## 4 試運転する

**準備**：室内ユニットの説明書を参照し、事前に漏電しゃ断器（電源）を「入」れてください。
約1分間は操作を受け付けませんが、設定中のため、故障ではありません。（設定中に受信した内容は解除されます。）

1. 応急運転ボタンの長押し（10秒）で試運転モードになります。
2. 試運転中は、表示ランプ（運転、タイマー、準備中）が点滅します。
3. 試運転を終了するには応急運転ボタンを長押し（10秒）してください。

**お願い**

- 試運転以外の目的には使わないでください。
（室内・室外ユニットに無理がかかるため）
- 暖房および冷房で試運転できます。温度変更はできません。
- 連続試運転を防止するため60分後自動で「オフ」になります。
- 電源投入後および運転停止後、約 3 分間は室外ユニットの運転はしません。

## 自己診断機能表と検出内容

下の表にある「警報表示」はワイヤードリモコンを接続した場合に表示される警報内容です。
警報の対処方法については、室内ユニットに付属の「据付（電気）工事説明書」や「テクニカルガイド」をご覧ください。

| 検出内容 | | ワイヤレスリモコン受信部の表示ランプ | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 警報表示 | 運転 | タイマー | 準備中 | 点滅 |
| リモコン回線上での通信異常 | E01 ～ E03、E08 ～ E14、E17、E18 | ◎ | ● | ● | |
| 室内外操作線または室外機サブバスでの通信異常 | E04 ～ E07、E15、E16、E19 ～ E31 | ● | ● | ◎ | |
| 室内保護装置動作 | P01、P09 ～ P14 | ● | ◎ | ◎ | 交互 |
| 室外保護装置動作 | P02 ～ P08、P15 ～ P31 | ◎ | ● | ◎ | 交互 |
| 室内サーミスタ異常 | F01 ～ F03、F10 ～ F11 | ◎ | ◎ | ● | 交互 |
| 室外サーミスタ異常 | F04 ～ F09、F12 ～ F28 | ◎ | ◎ | ○ | 交互 |
| 室内EEPROM異常 | F29 | ◎ | ◎ | ● | 同時 |
| 室外EEPROM異常 | F30、F31 | ◎ | ◎ | ○ | 同時 |
| 圧縮機関係異常 | H01 ～ H31 | ● | ◎ | ● | |
| 室内設定異常 | L01 ～ L03、L05 ～ L09 | ◎ | ● | ◎ | 同時 |
| 室外設定異常 | L04、L10 ～ L31 | ◎ | ○ | ◎ | 同時 |
| ガスヒートポンプエアコンの異常 | A01 ～ A31 | ● | ◎ | ◎ | 同時 |
| 冷暖不一致（冷暖自動不可機種への冷暖自動設定を含む） | | ○ | ◎ | ◎ | 交互 |
| オイル警報（室外保護装置動作と同じ） | | ◎ | ● | ◎ | 交互 |
| 自動アドレス中（ワイヤレスリモコンで行った場合） | | ◎ → | ◎ → | ◎ | 順次 |
| 試運転中 | | ◎ | ◎ | ◎ | 同時 |

●：消灯 ／ ○：点灯 ／ ◎：点滅（0.5秒間隔）

## 付属品

＜ ＞：個数

- 結束クランパー　＜1＞
- 据付（電気）工事説明書　＜1＞

## 仕様

| | |
|---|---|
| 品番 | CZ-10RWRT1A |
| 外形寸法 | (高さ) 65 mm × (幅) 141 mm × (奥行き) 22.5 mm |
| 質量 | 85 g |
| 使用温度・湿度範囲 | 0 ℃ ～ 40 ℃・20 % ～ 80 %　※ 屋内設置専用 |
| 電源 | DC 16 V（室内ユニットより供給） |